

糸満盛憲, 占部 憲, 高平尚伸 訳

MIS 人工関節置換術

黒坂昌弘 (神戸大学・整形外科学)

MIS の光と影を理論的かつ客観的に記載

欧米の第一線で活躍する整形外科医によって執筆された『Minimally Invasive Total Joint Arthroplasty』が、北里大学の糸満盛憲教授らによって翻訳され、『MIS 人工関節置換術』として出版された。

人工関節置換術は、数ある整形外科手術のなかでも最も確実性の高い、信頼のおける手術であることは、疑いの余地がない。人工関節置換術に関しては、デザインや材質の改良に始まり、種々の新しい試みが導入されている。最小侵襲手術と訳される Minimally Invasive Surgery (MIS) は、数ある新しい試みのなかで、近年最も注目されている概念である。少ない手術侵襲で患者の術後疼痛を和らげ、日常生活への復帰を早めるという概念は非常に魅力的であり、多くの整形外科医に広まりつつある。この意味では、本書は非常に時を得た出版であり、読者に理解しやすい図や写真の配置と、筆者の意図を組み込んだ、訳者の的確かつ明快な翻訳により、読者は多くのことを学び取ることができると確信する。従来の人工関節置換術の成績は安定しており、手術侵襲を小さくするだけでは、本質的なメリットは多くないとも考えられる。しかし、関節鏡手術が導入されたときに、置き去りにされた関節外科医が存在したように、最新の医療が導入されるときに、客観的にその技術を学び、導入していくことは外科医として

重要な姿勢である。

一方では、現在行われつつある MIS は、主として皮膚切開を短くすることに重点が置かれ、本当の意味で、患者にもたらされるメリットは未だ明確でない。多くの MIS に関する論文をみても、科学的に MIS が従来の方法に比較して明らかに優れているという傍証は得られていない。一方、関節鏡手術が、テレビモニターの導入でそれまでの手術に比して明らかに優れたものとなり、従来の関節切開を必要とする手術より、格段に優れた手技として確立された歴史を忘れてはならない。MIS においては、コンピュータによるナビゲーション手術の進歩にその期待が寄せられている。

本書には、MIS の光と影が明確に記載されており、コンピュータによるナビゲーション手術を含め、現時点での MIS 手術の功罪が、理論的かつ客観的に記載されている。MIS 手術に関する最も充実した著書といえる本書が翻訳され、多くの読者の皆さんの手元に届くことは、今後の MIS 手術が適切に評価され広まってゆくためには非常に重要なことと考えられる。多くの読者の方が、本書から MIS について学び、患者に福音がもたらされることを期待したい。(A4 頁 304 本体 12,000 円+税 5% 2007 医学書院刊)